



FAIR TRADE SUPPORTER NEWS



フェアトレードサポーターって何？

フェアトレードサポーター通信 v o l . 14

フェアトレードは、途上国などで作られた商品を適正な価格で購入することで、その国の人たちが、幸せに暮らすことができるようにする仕組みです。フェアトレードサポーターは、フェアトレードをもっと身近に感じてほしい、という想いから2019年度に誕生した組合員活動です。

現在5人の組合員サポーターが、「おいしく・たのしく・わかりやすく」をコンセプトに世界中のみんなが笑顔になれるよう、人と環境に優しいもの作りやサステナブルな取り組み【SDGs:持続可能な開発目標】を伝えていきたいと思っています。

★皆さんに活動を知ってもらえるようフェアトレードサポーター通信を発行しています。どうぞ楽しみに★

「パレスチナのオリーブオイルの内側」を開催しました。

7/24に「パレスチナのオリーブオイルの内側」と題してフェアトレードサポーター主催の学習会を開催しました。今回の講師は(株)オルター・トレード・ジャパン(ATJ)の小林様をお招きいたしました。

パレスチナでのオリーブの歴史としては、オリーブの原産地で3～4千年に渡り生活・文化の基盤であり、食用や灯火用、薬や肌に塗ったり石けんなど生活に欠かせないものです。古木(エルサレムゲッセマネの園)は、イエスキリストが祈りを捧げたとされています。パレスチナ問題とは、長い歴史があり宗教問題やテロに対する自衛戦争とされており、土地問題や植民地主義に対する抵抗で自衛運動が正しく国際法違反であり、パレスチナの人々は迫害を受けています。

分離壁は、「イスラエルの安全確保」と言う理由で高さ8メートルの巨大な壁が建設されましたが、学校や職場、病院や畑などに行くための道を閉ざされ検問所で足止めされパレスチナ人の移動制限を余儀なくされる事態となっています。自由を奪われ、現在では水の使用制限や食料普及も制限を虐げられています。パレスチナ人が自ら土地を離れるように仕向けられているのです。そんな過酷な中でも、世界の人々に関心を持ってもらうためにオリーブの生産を続けています。

パレスチナの生産者は、オリーブを一つずつ手摘みし鮮度を保つために24時間以内搾油され世界基準のエキストラオリーブオイルとして製造されています。1本のオリーブオイルですが、購入することで関心を示し生産者へのメッセージとなります。そんなパレスチナ産のオリーブオイルは、和食にとってもあいます。活用方法も、調理実習と一緒に学びました。今回は、ATJのホームページで紹介されているレシピで暑い夏に向けて火を使わず、パレスチナ産のオリーブオイルは生(フレッシュ)で味わってもらいたいと講師の小林様提案のレシピも一緒に作りました。オリーブオイルのテイastingをしシンプルなおリーブオイルも味わってもらいました。



イベントの様子

参加者の感想の一部です。

- ・オリーブオイルを通してお料理だけでなく、生産国のことまで学ぶことができ良かったです。
- ・世界で起きている問題は他人ごとではないと思えるような、身近な食材と絡めての企画でもありパレスチナのこと、オリーブオイルのこと、新しいレシピなど、様々な学びになりました。オリーブオイルを使うことが支援になると思い、使っていきたいです。

(株)オルター・トレード・ジャパン(ATJ)について

つながる・共感する・助け合う

～ATJの取り組み～

(株)オルター・トレード・ジャパン(ATJ)は、人から人への交易(民衆交易)を行う会社です。いのち、暮らし、自然を守る食べものの交易を通して生産者の自立、そして生産者と消費者が交互に支え合う関係を目指しています。

ATJは、1980年代に起きた砂糖の国際価格の暴落により飢餓に陥ったフィリピン・ネグロス島の人々への支援活動から始まりました。市民団体と生協がネグロス島の人々を支える仕組みとしてマスコバド糖とバランゴンバナナの民衆交易を構想し、その事業体として1989年にATJが設立されました。

その後、民衆交易はインドネシア(エコシュリンプ) フランス(塩) 東ティモール、ラオス(コーヒー) インドネシア・パプア州(カカオ) パレスチナ(オリーブオイル)へと広がっています。そしてその取り組みは地域の食料自給や環境保全などを通して生産者の生活向上や地域づくりに発展しています。

ATJでは、民衆交易の事業体として設立され、民衆交易を広めてきました。そうしたことから産地の生産者への強い思いと消費者との交流を大切にしていることを感じ取ることができます。



当日のメニュー

左:ヨーグルトディップ

右:和風ガスパチョ

フェアトレード出前講座にはこんな内容があります！

～フェアトレードバナナ出前講座～

「フェアトレードバナナの長い旅」という紙芝居を使いフェアトレードバナナが現地で収穫されて、組合員の皆さんに届くまでを動くスライドや画像で分かりやすく紹介します。



～フェアトレードチョコレート出前講座～

フェアトレードチョコレートができるまでと、カカオを作っている人たちについて、紙芝居で分かりやすくお伝えします。



出前講座の活動報告

2025年度、フェアトレードサポーターは各地で講座を開きました。
ぜひ活動の様子をご覧ください♪

■4月 フリースクール宝島出前講座「フェアトレードバナナ」

バナナを入れたホットケーキを調理しました。クイズなど楽しく紙芝居も見てもらい、調理前には「バナナ入りは食べない」と言っていたお子さんも、みんなの美味しいと言う声に一口食べたところ、美味しいとたくさん食べてくれました。お話しだけでなく体感していただけて嬉しかったです。

■5月 一宮センターサポーター向け出前講座 「フェアトレードバナナ」
フェアトレードのバナナの生産者の話を聞いていただきました。今後のセンターサポーターのみなさんの活動に役に立てたら良いなと思いました。

■7月 諏訪センターサポーター向け出前講座 「フェアトレードバナナ」
皆さん「フェアトレード」の言葉は聞いた事あるけど詳しくは…と口を揃えて発言されるも、終わりには「詳しく聞けて良かった。紙芝居も分かりやすかった」と感想を貰いつつ、マスコバド糖の使い方の質問も出るなど、こちらも有意義な時間になりました。自分も改めてATJのHP見てマスコバド糖の使い方を学び直そうと思いました。

■7月 諏訪センターイベント 「フェアトレードバナナ」
チョコバナナイベントを開催し、親子4組が参加してくださいました。フェアトレードのバランゴンバナナとフェアトレードチョコレートの組み合わせという贅沢な材料を使用して、子どもたちはチョコでベタベタになりながらも、楽しんでいただけたようです。後半はフェアトレードバナナを紙芝居を通して勉強していただき、興味深く聞いていただけました。子どもたちの心に少しでもフェアトレードの記憶がとどめられることを願っています。

■8月 笛吹市学童出前講座「フェアトレードバナナ」
「はなぶさふれあい児童館」にて、小学生35人を対象に、フェアトレードバナナの紙芝居を話して来しました。皆さん静かに聞いて貰え、紙芝居内のクイズにも率先して手を挙げてもらえたり、こちらも楽しく過ごせました。「なんでバナナって黄色くなるの？」等など質問も出て、答えを返して有意義な時間を過ごせました。



当日の様子

■8月 山梨市学童出前講座「フェアトレードバナナ」
小1~小6の児童およそ30人が集まり、「フェアトレードバナナ」のお話しをしました。シナリオは、低学年には難しいかと思いましたが、みんな熱心に耳を傾けてくれました。今は、難しくても、成長段階で「フェアトレードバナナの話聞いた事あるな」と頭の片隅にでも記憶してくれたらサポーター活動をしている甲斐があったなと感じられると思いました。

今後も、甲斐センターサポーターや、西桂センターサポーターへも実施予定です。活動の場が増えることで多くの方に「フェアトレード」を知っていただければ嬉しいです。

出前講座は5名以上集まれば開催可能です！ご依頼の場合は、希望日の2か月前までにお電話にてお申し込みください。

紙芝居がこちら



☆ 11月12日（水）開催イベント告知

第3世界ショップは、1986年日本で最初に、貧困やそれに関連する世界の諸問題を仕事創りで解決しようと、フェアトレード事業を始めました。主な取扱商品は、スリランカカレー、チョコレート、ココア、コーヒー、ペッパー、工芸品などです。そして、さらに「コミュニティトレード」へと活動を広げ、平塚市の「嬉々!!CREATIVE」とのコラボによるアートパッケージは、キキのアートと海外生産者たちの各商品をさらにHAPPYなものにしています。ここでは、年間を通して食べられる“カレー”を紹介します。ばるはび店舗や普段の注文で手に入る「カレーの壺」を知っていますか？スパイスや香味野菜などのうまみたっぷりで、とても奥深いスパイスカレーが作れます。ペースト状なので、炒め物やスープなど使い勝手もよいです。秋には「カレーの壺」を使ったイベントを企画中です。メーカーさんからカレー以外の使用方法や、美味しい炊き込みご飯などレシピをワクワクしながら模索中です。乞うご期待！詳細は10月5回（10/13～17）配布のチラシをご覧ください。



お問い合わせ先：パルシステム山梨 長野 事業部

Tel：055-243-6328
月～金：9：00～17：00

HPより活動報告も

